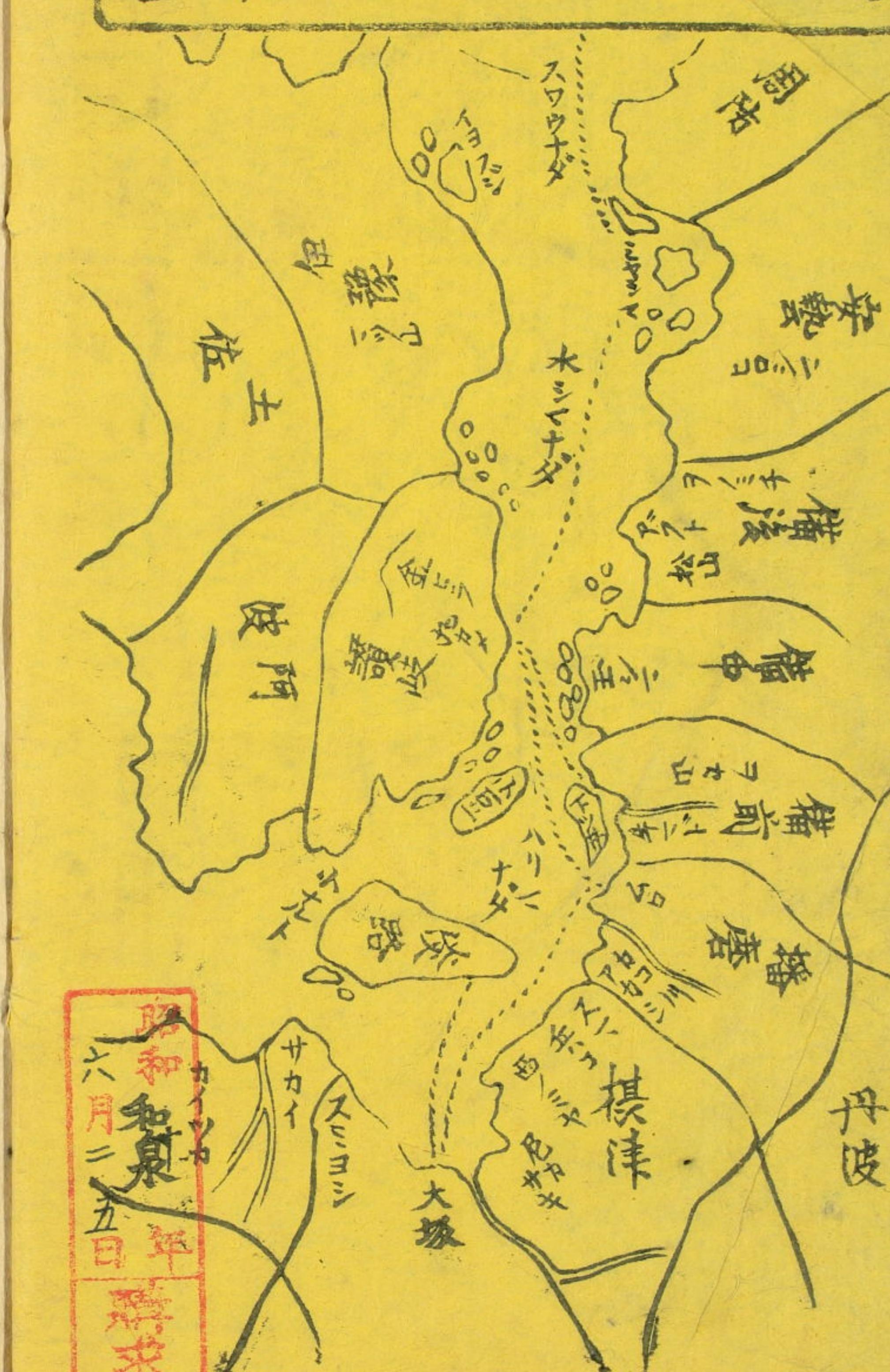


30
29
28
27
26
25
24
23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1

JAPAN
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

淀大阪至金昆羅洋海圖



金昆羅續膝栗毛初編 十返舎一九戯著
參詣續膝栗毛初編 十返舍一九戯著
榮邑堂上木

金昆羅續膝栗毛初編序

參
諸

弔若干年の頃持陽浪速（よもぎ）子ありし時、一と歩高知（たかち）より用ありて下りて、船の底（そこ）不象既山（さん）ふるを詣し、善通寺弥谷（やいだに）を遊歴（ゆれき）し

たゞしが秀異勝景（しゆい しょうけい）の地ありしより、感情今ふ想像（きうぞう）する小姓（こむわ）、次（つぎ）まくらを以締（ひざむ）糸（いと）毛（け）を止（とど）すとつても、古津中家（こづなかや）

予が金剛菩薩信仰の如き教すが故よ。せうて
を詠りのゆゑを編よと教母も。予彼地理
行程のゆゑよりハ知得しのみ。土人の通音
久島の風俗は殊々ふるく。國語もれども。且
手のせをと附ださくて。竟見よ母二巻と編
出せむ。山野にて。草木又曰。諸小毒。噛ん
かのハ四毛。山中。露と厭つて。あひ。ま活。さ

まほすアホ。まの。難く。ひまよ。ぐぬく。佛業
毛もあと。ま毛。山野。し。よ。ハ。編。毛。霞。毛
一篇。じ。ひ。ま。と。續。羅葉。毛。初。海。と。新。毛
あし。ま。彼。發。安。若。が。東。都。小。屏。若。せ。毛
す。ま。編。も。み。み。ふ。年。同。三。ハ。河。漕。の。網。小
道。毛。し。唯。ま。の。毛。と。羅。葉。毛。ふ。毛。と。毛。ば。
ま。拂。日。も。始。有。て。終。も。ま。と。毛。し。冉。中。の

兩士伊勢三里。若狭大坂也。而
その飯石山すなづらの龍坂駒尾の名作
しもゝ親舊者不收の生るくはきし。而も主
體作のかどう生綱數と曰ふ称出せむがゆ
化ふ例まじ。松舊者の中甚也續く。どもまじ
主と曲てものふ無むも又深矣のをも
あれぞ。海もねむふりよみがてて。歴歴

第十三

岐義義之年の紀行と紹して。號不謙ふる
櫻鉄とれくみづる。さよど下が蟬才めりも
力あきよ仕せき。頃向早半糟粕とありとれど。
覽るほほのぶの藏の爲ふのとものもむ跡も。
見ゆるも面目かれて。ナリアヌ

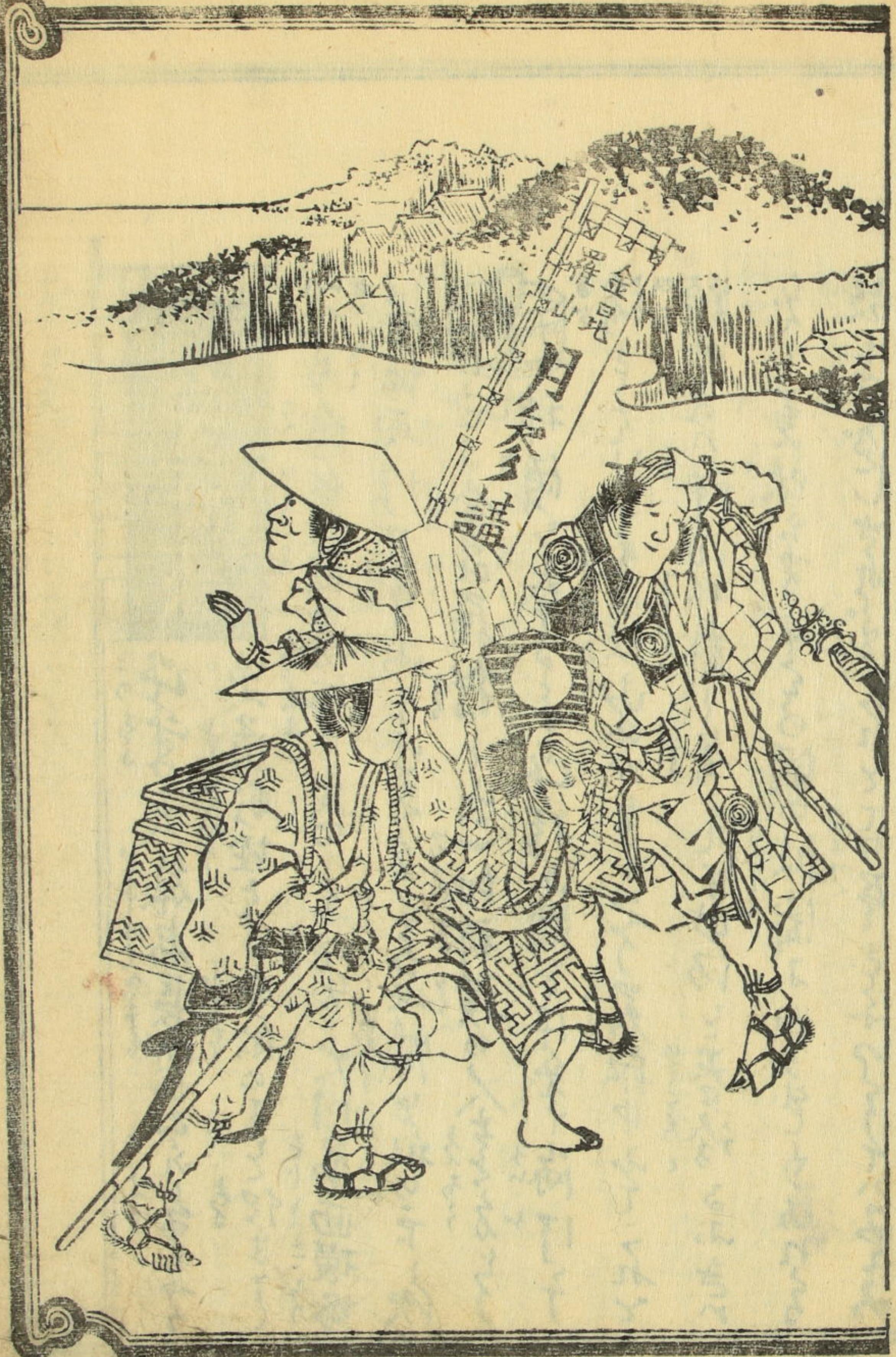
文化
庚午春

東都逸民

十返舎一九誌



譜列金昆羅在鵝足郡
山形似象頭故名象頭
山相傳當山天狗名金
昆羅坊前之靈驗多
所崇亦甚嚴云



序上



墨亭 月唐画

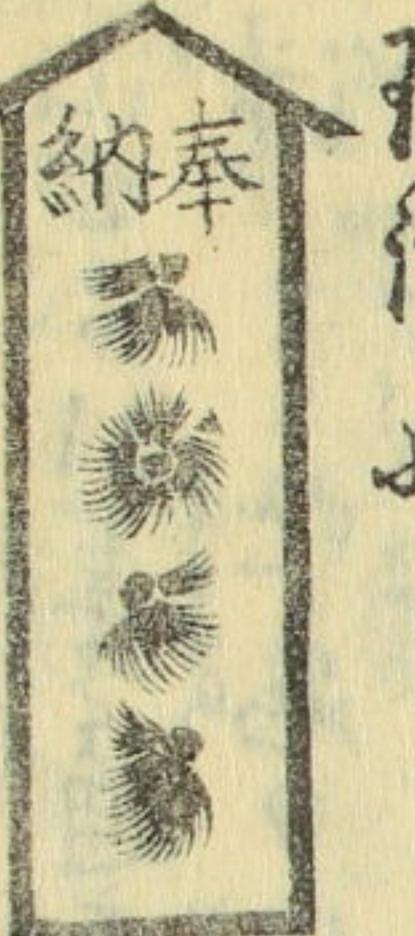
諧
勑 金毘羅船

學季五郎旅お長町のうれとすすす
ゆ人道形姪とすす無船のととむまこと

がくも金毘羅船の出でを夏のとみ船と大門筋西横堺
金毘羅門口等ふくふくとすすみ此城と私のアヤと次
母子金毘羅持と云一切祈願の人とまくらう
神酒と奉るとて学季酒とほりと海に手

海に手にして金毘羅山ふくふくとて船中かとこれと
拾ふくめ神湯以戴て寄してけ湯と天正修るおき
免て美味ちうそまの酒の波濤不ゆきをりはれど
故あるをしきもおれとて立候とおひくとてへふくみ
立候ゆ

三十日 海藻 三十日 ひづきも喰ふがくとどり一過て
金
金ふよかく船中ふぞるあくとくふまむ生昔より 金
昆蟲猪人の船ハあやまちあるとほくとくと本海の
移候ゆ



廣前

かくのやくの繪馬ゑくとく
のとくとおきと拂ひ此達神は新誓まろお祭されど
ひまき故ゆの誓と奉るまて末代神身とておき
ざるもおき

左の事はちゆまく小用をすきふせうとせども金比羅
主事の人の爲ふ國ヲ祀り。一ノ年。お祭との編をめね
川口を走る車。おで船中のことをあいだすかく。お祭改
山おより。善吉通奉。又花屋。山。御令車。手を経て。善吉
伴。おひた。急の事。もつてゆく。教り。おおむろ。そよ。餘
備前牛家。おこづか。播磨加賀助。岸。源。おもむき。
二編の。もと。ト。たう。ゆづる。事。おもむき。

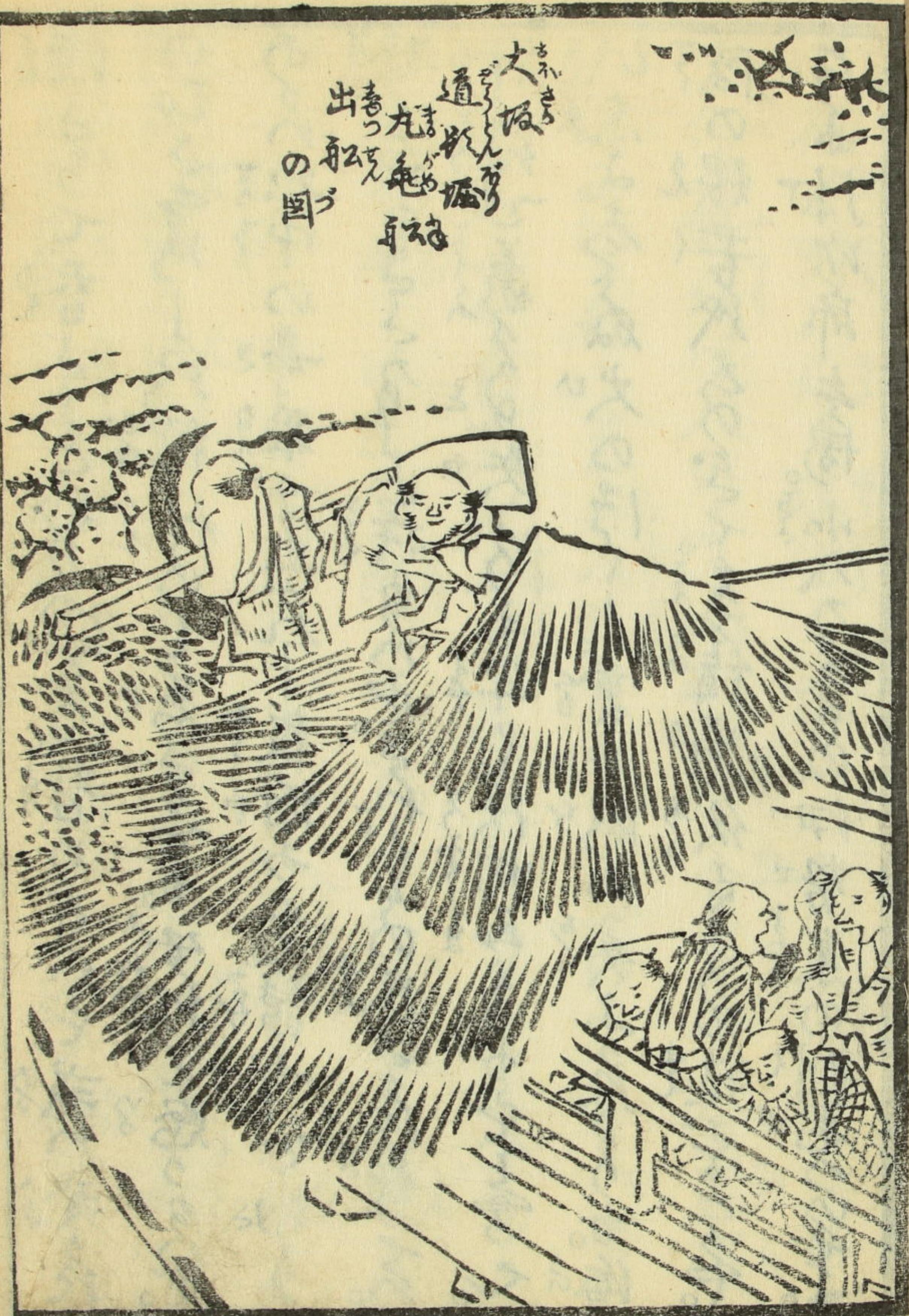
金毘羅續膝栗毛初編 上巻

東武 十返舎一九著

參
抑
讚
岐
國
象
頭
山
金
毘
羅
大
權
視
と
号
一
毛
毛
初
編
上
巻

靈驗ゆふ。すすりて。祭神未詳。或云三輪大明神。
亦云素盞烏尊。又云金山彦命。あり。此月の奉
供。小毛と。信念。拜仰。せふ。れひ。みく。唐人。も
降神觀。とり。額。と。そ。さうし。倭漢普通神力
妙用。のん。神。と。されば諸職の業。小長。せんと。裸糸の
えす。入。下。ばよ。祈。ゑ。ぬ。も。あり。と。み。を。み。り。碎。倒。れ。の

大坂
道
出
の
國
の
船
の
舟



酒うちて。舌うとありとも。智りもへど。或へ瘡れ
のしきらぬしれ。纏付のそろふとも。それと瘡れもへど。
ゆゑに松中の毒難。すみだれ一報附みて。齧ぐを切り
棒くらぬむまくと。棒ぬへど。されどその様ざと取る。
朴野と轟く。矢も罕く。後炮玉うもとまく。
はあよ。あくね火のほく。雲井浜の奥からとう。海
陸の銀苦代ありき。糸を詰歸伏するの経ざとくや。
くふ你次席を閣。小八百の。伊勢系の刷毛つるよ。

浪花長町より。逗留。既に取引の用事有る所。
相宿よ野州の人の。名へて。泊り合せたるが。金毘羅
えぬ。諸よあくねそ。一人旅立ねば。往く所へも
同道せんと。まじめ。兩人まじめの。よとひひが、
路用令急け。とびらうと。うの人呼て。その腹も
氣づひひ。力も不足の。よゆくべ。僕んとの約束を。
寝起ぬのと。彼乞と。喫あへせ。さて三人打連。長町を
立したるの。相宿。通称塙の大屋をとる。掛めへど

とえうけて野良の人ヤーチ_{ハキキ}のハアチとカのサシまヒとベい。え
びトとスくりド船ハでキのトーマモジやロかスキミ
ハア。あマくトやウ。との施セきトどのふウひタとベい。ア
どもへハア。えビ、シまヘいドのシが、アならんサアイくら
ほんどーまシぐルなだ。ハイアいシくうねじす。アイ三人
同ギ志ジでジるハイアいトうカ。船ハ貨カ雜カ用ヨとモ拾ゲハタ
づでじエまヒのナ。アイんざちア。ソリヤアでト。とシみれ
どのー。らくとまたまるトき。アイヤヨハ室重シ候ヘでジる

すきとまふシうめよじや。アテときりアいドやシうる
せせぬコいな。船ハ中シくりくア。日利ハ才シでハ有ア。から
すきとまえエもあまハ。アレどアうてむげ行ハる。北ヒ
うちヤアウせまるの。アハテアり。室シ重シ候ヘとリア
めシ方カへゆり。アハアド。えビ、シまヘいド。アウぎう
モトトオぐトうなとうはア。おまんセ。アモシ船へシぞシくシ。モト
すき。えまくシ。演ハおえんセ。懲シのシ。船ハよりんまる
かば。出シレダチ

うとうらへ。ままとくさむると。あひ子どもへ。あえんあえんの。うまきをめ
めよるがびりんと。あひやどめ見せんう。ううてぐらきをぬるひす様
人。まくうちれど。まくと。まくと。サアくアマウタマウタマウの也
まくねゆのうつる

まくまくや。まくまく

上枝

まくまくふあんごぶまん。あんがむすく。まくまく
まくまく

ちんサエヒチヤ。ヨレモの駄がまうど。あうとそ

ちやの駄丸へつひてねばんせ。コリヤハアゆうまう志年ほ
ゆびとゆびと。人をまぐりでかくへまぐる。エレハイ。まぐる

ゆびとゆびと。人をまぐりでかくへまぐる。
ゆびとゆびと。人をまぐりでかくへまぐる。

七五

小ヤア。財せんざうどん。取へハイ。づぎの。ヤアアリんま

あひよびるの。サアく多ひうひな。多ひから出さんせ。り

あひよびるの。コレハあひが。出退座。じごくは。まよ

まよ。出退座。りと出るまえ。トヘ軽い。べなと。と。うな

うな。軽い。と。うな。トヘ軽い。まわが。と。うな
うな。軽い。と。うな。トヘ軽い。まわが。と。うな

のアキア。夜あらの。づぎの。ト。おもへこぶる

アキア。夜あらの。づぎの。まよ。あらよあらよ

まよ。モミセんざう。さんび。うが。まよ。まよ。まよ。まよ。

七六

ゆくやう。もやの類へ。そのあぶさがやうのト。ちとも勢い
それへ。お軒中の旅人。あまがくみて。せうぐれしとゆき。小ハクをももり。ま
ものまへん。うつヨリ。まきれば。ごちまちまち。ととく
水。はくまがくめ。うせ人のたゞ。小便。あくをや。ヤグニ
ト。大をもと。とくとく。と。のあと。こひらをと。アモリ。アモリ。アモリ。
きまのゆへ。ある。まきへり。よあつまき
イヤ。きくまき。びく。はく。あく。まく。の人の。の。合。あそび。うや
の。まき。ハユ。むね。まき。まく。へ。う。ぐ。ま。人
金。ヤ
あく。ぬ。あく。と。ぞん。び。ト。そ。の。ま。ま。よ。ま。ま。と。り。る。コ。リ。ヤ。さ
人。を。引。も。あ。の。人。へ。あ。ち。あ。の
金。も。ひ。い。と。り。そ。ん。な。ゆ。き。と。ひ。か。き。か。ト。水。ハ。が
つ。ひ。と。う。ま。ま。せ。ん。や。ハ。ス。も。や。が。う。つ。と。せ。ん。ち。じ。ま。ま。く。や
ま。ま。う。ま。ま。せ。ん。や。ハ。ス。も。や。が。う。つ。と。せ。ん。ち。じ。ま。ま。く。や

「何ちふえをすすひ。そと子や。ゑよ。けづくま
ぐふ多ち人」
「ホシニアひふまゆくセイ」
江戸丸の而相アマサニ
けづるが子ヤツバイヤタマらすタマどくタマく。小八合羽ハチガハうら。
トベトカミハモタマ引タマ是タマトタマめくよ。やもめくと
りよ。うふえタマねく。うらよとく。タマくタマの
男タマトタマよみだタマ。合羽ハとひつタマ。やりあすとうらめ。あよタマて
きタマハのタマタマ。おづれ。あづれ。うつタマ。のう合
きタマくタマくとタマく。ほづれ。あづれ。まくタマくらきタマ
火タマのタマよタマくタマまタマりタマくタマひタマ

とくとくとく合羽ハ燒ヤざまくタマ
一タマよ。船中ボウヂウのよタマ大タマとひとよタマふ。徑タマく
船ボウのちや。本條川ボウヂウよりタマれタマば。夜ヨゆ子ネのタマくタマよタマりタマ。は
よタマくタマくとタマ後タマゆりタマべ。衆タマ生タマえタマと。船ボウ水ス子ネもタマびタマ
く。休息タマのてタマよ。船中ボウヂウもひそタマまタマ。おのタマくタマぐタマき
りのふ。改タマりタマせそ打タマうちタマ。おタマへ荷物タマ包タマすタマの
よタマて。居眼タマるもタマ。おタマへ肘タマまタマ。おタマへ荷物タマ包タマすタマの
よタマに。改タマりタマ子ネども。俄タマよ騒タマ立タマ。帆柱タマあタマく。

帆綱ひきあげる。今や沖よ素戔人ともゆせうほ。
私中多く日とす。かうぐは顔う牛。手あ
はひて象山のやくもあがむ。尔びに北のゆけ
通経と

もとつうの儀の事也。うか
うはくぬこのさんびの私
私奥。船出せとふ。彼毛うらかするうち。をくゆ
沖よもくよ。私ひがヨウソロイのまひまく。追風

小帆り矢を射る。や日の出るに。兵庫の
沖みそりうる。大坂よりとろうまで重くふて四方をえどせば。
東の木は。甲山摩耶山丹生の山。もううが峯
ひと目前よみゆき

仙人のそりんあくび霞ゆ
吐ゆ。すれぐらへがみゆ
大陸地の西の宮。新津戸。湊ナさんどり。浦
黙くえとれて。眺望の景えりむすり。新田の

播磨

舞子濱

松

扇の木

似て

玉の扇の
木の

舞の長宝さ

紫舟庵

一雙



初音樓
一粧

淡路島

うる茶の
波の

風と

まき

みゆくの

舞乃
系々
爻

初音樓
一粧

山。アリモ構トリテ云々ある。此も午の刻たゞくふき。
シト死俄ニ風うきうきとく。帆綱引えやぢう
る。さき切をとりとをすてちる船は。船中おれ
申列の人船よ辭す。ふりもあれどく。乞青
ざあまくらやれどアア。アキラマア
あんでも茶サアお合せあんぐふく。ちとやまく
ハアおそがふらんざアハア。アキラもあく。少ハモウ
シモウハナク水あくらゆがやけどの茶。やアラスアヒ

「さんどとひよモニあひぐア何ぞくもくわおみきん
ウツヤイあんぜまもどりヨリヤナ。船よ碎むどもあ
まううへ葉がづぶ。とくじざまう。まうねとくそ何とく
葉どぬマ。ケサナアほえまがくづふとく。大坂で
ナア。うそをあく。あえちうまがんとアサ
きらマ。うちぬづもあれな。せうきく。ざぞ
さま。のふくと。あてやま。モえとかせひひせ
る。リレヒトクアツく。モザラムスル。サキナラ

が。陽サア。あらうと。うそ。やまの。タイシ。モレ松。えん。陽。
がひと。うかひと。の。あんちうり。さん。か。お。や。だ。が
ゆう。ぜよ。きよ。子ヤ。あまい。もの。金。よ。冠。が。掌。を
西北風
は。松。が。よ。い。せ。う。り。子ヤ。ホニニ。コ。クリ。ヤ。ど。づ。て。絆。よ。松。が。ゆ。き
の。合。を
が。く。る。よ。い。風。よ。や。せん。ぎ。う。ま。ん。コ。リ。ヤ。ど。づ。小。ゆ。い。な。剣。
中。通。う。き。ま。れ。金。昆。羅。えん。ら。信。心。えん。セ。コレナ。和。佐。
七。ま。う。う。帆。ノ。ウ。ま。げ。ん。ふ。不。エ。イ。コ。リ。ヤ。帆。縁。ノ。ウ。を。不。
を。あ。サ。ア。不。帆。方。コ。リ。ヤ。ク。じ。が。ご。も。う。ん。ま。ト。サ。ア。不。

べい。みよちやア。あとこじでされ後 も あとせりつて
たまうかのう。ふがそいときよ。あいそじやアとを
うり。ふはめりひくとくもくつてゐる。それがせま
よ。ほせき。卦朱トキキよ幸い。拾がある。あれをじ
てきまく。ワクヤアめがて。がそれよう。あら。難
あらむ。さんよあの布子を。おきよんね。な。わ
へる。あれがたすのりくらう。が。ナニ。まち取
りの。が。すきぬもあら。一。ヤアそんすく。あこ
二

あら。大山不動明王。さあうてうらいく。イヤの
ぎく。向へある。怪よ助け。が。う。ラ。イ。バ。イ
テ。い。まきり。づね。ト。然。と。から。と。び。よ。あく。げ。え。く。そ
こ。き。ある。大坂。う。ト。の。だ。た。る。と。ゆ。く。そ。う。を。あ。う。せ。の。よ。う。り。が。ち
時。も。う。ま。よ。ど。り。う。き。さ。く。の。だ。う。ど。も。お。も。も。ま。ま。大。所。ま。じ
ヲ。ワ。テ。ウ。ヨ。ウ。リ。ロ。ラ。ツ。テ。ウ。ヨ。ウ。リ。ロ。一
二。の。二。ラ。イ。ジ。ぞ。と。ま。と。て。や。れ。と。の。二。三。
そ。れ。ぐ。ト。み。よ。と。あ。ら。せ。く。お。ま。と。う。が。う。と。ど。も。り。う。と。う。よ。え。ま
ほ。後。ゆ。せ。せ。が。う。今。そ。れ。あ。く。う。き。も。ぱ。り。う。と。う。ま。り。ど。う
か。く。と。と。で。「そ。り。あ。す。ひ。や。う。ど。コ。ワ。ヤ。カ。く。小。ハ。じ。う

へり。こんなふうにとれ。ワアレーハーあはがね。
とさの事令どろ。ワアイトみをもむらう。
作よのと。もせよくもとけのわくの風。ややあくす
ひをまく。すくわくのわくの風。ややあくす
くも。轍。のどり。のえやす。
室の津。より一里半。もくすく。山の風。ぐて。
怪巖。奇石。ともかく。風景。殊。よし。あれど。かれ
難堪。むき。打。よ。一。が。さて。平山のう。よ。
焼。祭。堂のそ。や。と。お。き。と。室の邊。り。と。船中

の。蘇生。ひだ。と。と。の。よ。ま。り。と。と。の。き。め。
え。じ。く。こ。私。ひ。子。ゆ。り。ま。き。う。て。息。つ。だ。め。と。ぞ。
ア。う。り。る。大。坂。う。れ。タ。リ。私。ひ。子。だ
て。象。山。の。山。を。あ。ま。と。も。う。た。キ。夜。ふ。入。れ。ば。
私。ひ。ど。も。と。ち。ん。と。と。と。と。と。と。と。と。
ほ。ほ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
ヨ。ウ。と。と。私。が。つ。と。サ。ア。ら。う。と。と。と。と。と。と。
ど。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

ヤアコリヤあんざそよな^メ「ナニえんじエビ。ドレ^ノ、わんよ
 りうのまよや^ハ」てこ有^リれ。大^アんな^シ。コリヤ^シ
 りんじ^ヲト^ノトリ^リを^タが^ヘ。^ハ合^ミを^タつ^ス。^リま^ミ
 ド^カ。^シく^ミよ^リ。^ムさ^イ。^シか^ル。^ウー^レ、^ノ^ウ、^マー^ル
 ロ^ウの^ハテ^シご^カ。お^ゆつ^ミく^レ、^シや^ウる^モ。
 くまの^シの^シ。^シひ^ク、^シの^シ。^シ合^メ、^シの^シ。^シの^シ
 くま^ノ、^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ、^シの^シ
 くま^ノ、^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ。

や。^子も^おんべり^ヨ。^シハリ^サ
 す^ムわ^くり^ウ。^シジ^ト。^シと^シ。^シと^シ。^シと^シ。^シと^シ。^シと^シ
 く^もあ^けん^ス。^シま^いだ^ふ。^シよ^うで。^シく^じぞ^う
 く^もせ^ナ^ノ、^シき^ら、^シか^み、^シづ^き。^シや^ス。^シ、^シ、^シ、^シ。^シ、^シ
 あ^くの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ
 やんの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ
 あ^くの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ。^シの^シ

播磨國室
風景

帆はれと

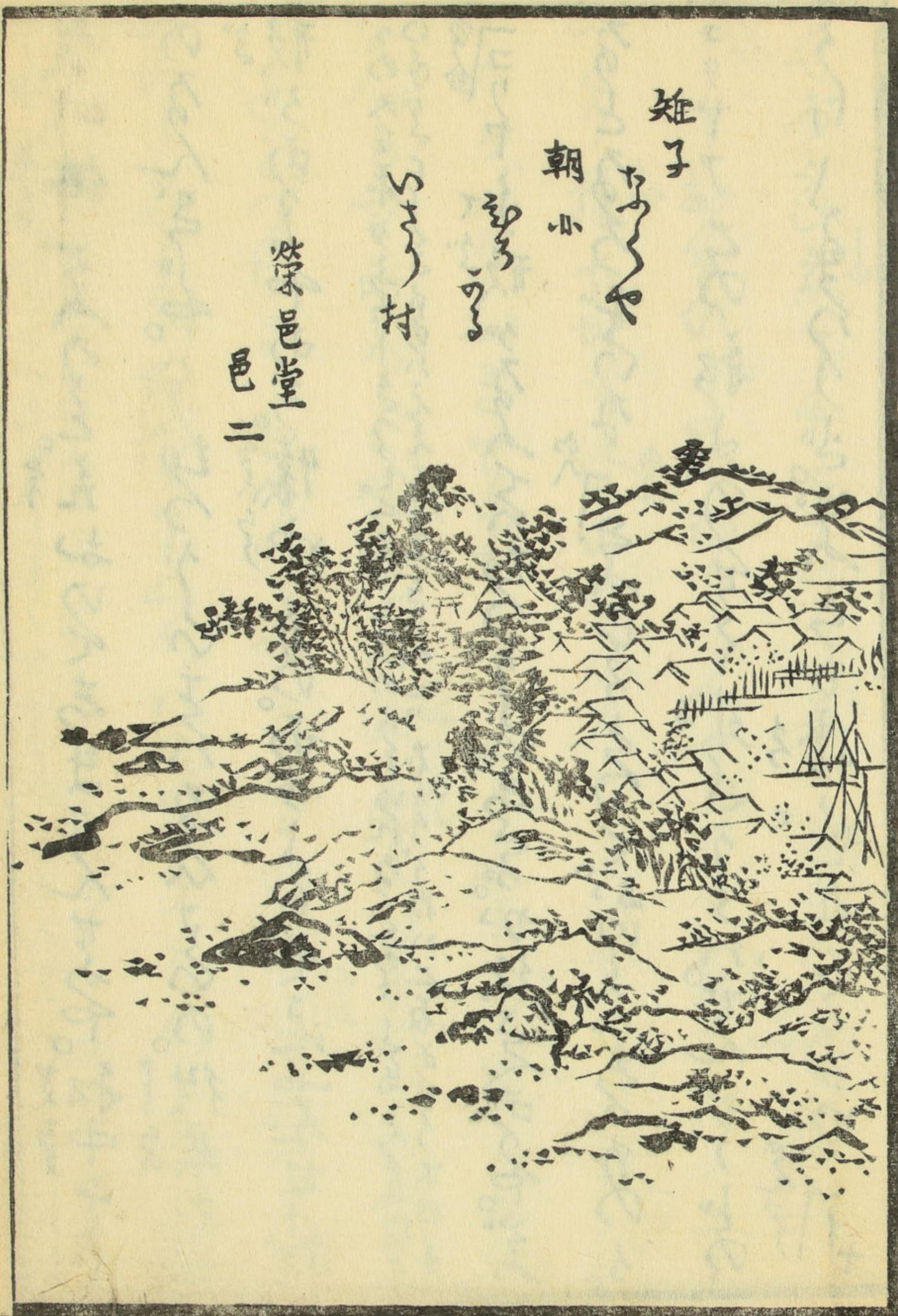
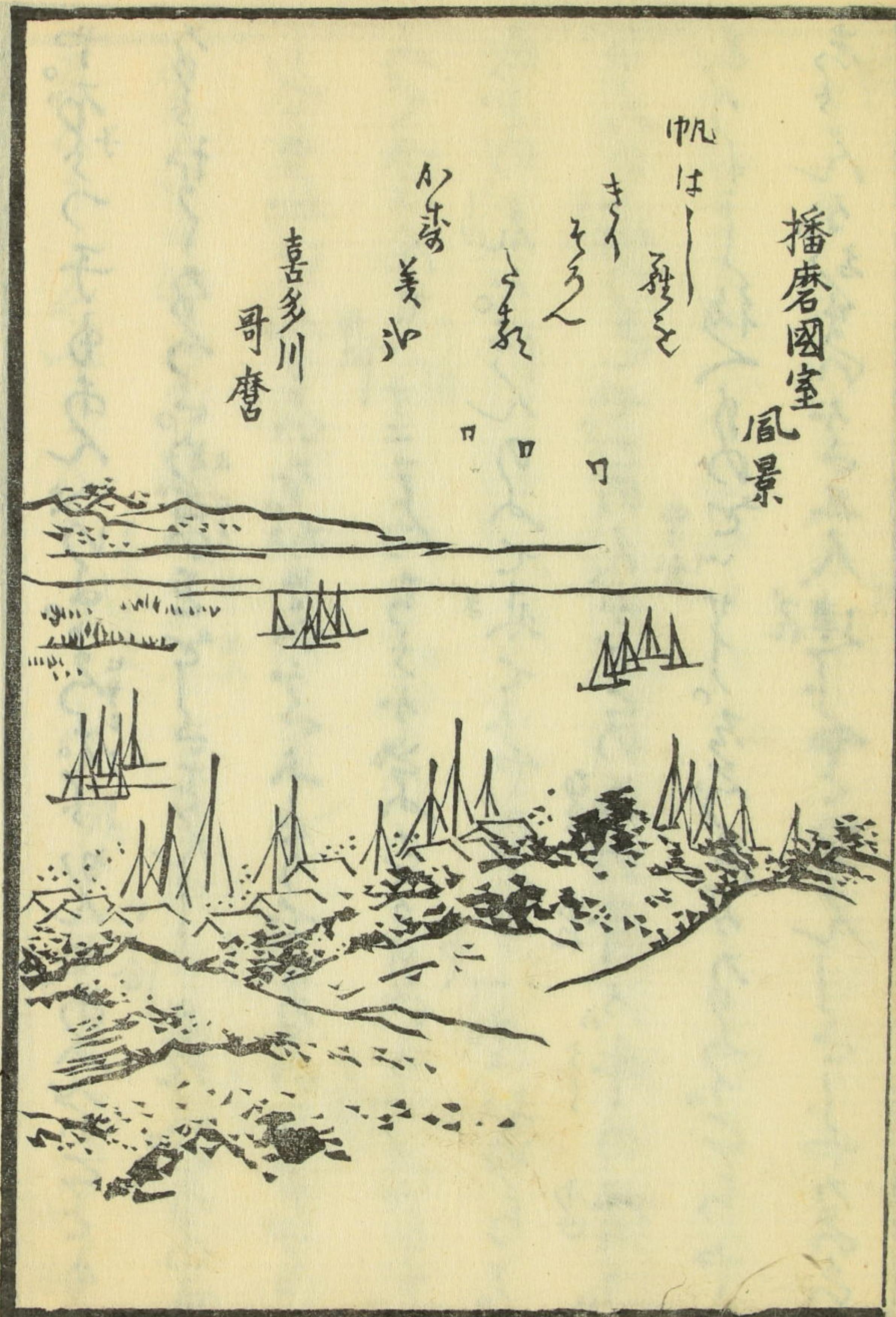
さくら

さくら

いそみ

まき

喜多川
哥麿



姫子

あさや

朝小

さくら

いそみ

榮邑堂
邑二

なれば佛^{おと}どぶすと。えありそあまほんせあや。私中^{わたく}を^う
のりん^うき^うや。ハテもろ^うのとんきん^うの。往來^{うり}のとて
形^{かたち}が^うる^うや^う。懷中^{くわいぢゆう}の。あく^うあく^うて^くんせ^うト^う
の^うぎ^うら^うき^うり^うの^うえ^うも^う。ま^うく^うく^うく^うの^うう^うに^うり^うな^うう^うう^う。あ^うく^うと^うあ^うく^うう^う。^うの^う
ヨリヤ^う歌^うる^うよ^うれ^うむ^う。あ^うく^うか^うる^う。あ^うく^うよ^うう^う。^うの^う
うと^うう^うぞ^うの^う。ま^うく^うく^うう^う。あ^うく^うが^うる^うの^う。^うの^う
コリヤア^うの^うよ^うの^うせ^うく^う。ま^うく^うく^う。せん^うざ^うど^う
う^うり^うま^うく^うう^う。ま^うく^うく^うう^う。せん^うざ^うど^う
上^{じよう}七^{しち}

そ^うが^うと^うひ^うね^う。じ^うや^うる^う。身^みが^うま^うく^うら^うり^うぬ^う
ヨリヤ^うあ^うき^うの^うぎ^う。む^うり^う。じ^うや^うる^う。死^うり^うれ^うと^う人^う
ひ^うく^う旅^たで^う。が^うく^う舍^すの^うす^う人^うす^う。り^うとも^う私^う改^う
ど^うが^う。う^うあ^うき^うや^うる^う。人^うす^う。り^うとも^う私^う改^う
え^うん^うト^うや^うう^うと^う。同^う屋^やの^う情^う面^{めん}よ^う。あ^うき^うの^うぎ^うと^う人^う
ほ^うき^うと^う。づ^うき^うや^うつ^う。じ^うや^うき^うく^うり^う。ま^うく^うう^う。^うの^う
あ^うく^うだ^うか^う。か^うづ^うま^うう^う。な^うる^う。ま^うト^う。う^う
う^うき^うと^うう^うと^う。の^うよ^う。ま^うう^う。う^うき^うの^う。ま^うく^うと^うう^う。

あつて。橋ノ一箇の繁昌の地なれば。南家まみ土
多はアの野とよどぐて。もうちつゞケモ。ほんと少
くと寺あるきと。野ねそづりともへりどす。
小の町とひよ中をどよう。右の方の横町より入る
橋ノ久保が本丸をアリ。五角形よ三味えん引。
うよをまけびへうらのエリ うらのえんよのま。
百方が巣をうけ壁とりよてまづと。まようあり
が。まよそんくふく。うくまづまよんとあく。一

えまうさんとまく。めでたすかうどきのまくどう。車の
そりの輪もくどう。まろさびくとまくまんまくん
ぐ。まくんぐくさん。あくまくさんとまくづるちへ。
ミツキヨクアシナガラモシゲのあさ。イヤかひをぶ
そよる。そろひわくアシナガラモシゲのあさ。ホニ。うがづむうじつ
へ。キトヒナリてやうす。トまちまちうれでそらトモアケイ
ロのうちゆい。庭のことをあけておまどあまよひひてみる。びゆるまき衣
まきりんどりうてそくよくうげりまうまが三味せんをまきを
てまくうめくじよ。あとアカセ大の男太。トまのひろそをきよるが
みのとえくまきかまよもとひれくうれもまううのげのまき

トマヨ田舎の約束ども。こやうむぎうなつども。

うんともぐ。あせんまよううも。とうエーくやんむ
腰

かんせ。二の松まきりふそりつもろて。ザシヨリナ
腰
コロシイ

大ねぬとコレイア。トまくまくわく。いやそんぬあどよ。

まくまく。ナシイナ。おびのな。まふと小ハ。もとま
腰

あそんでりまよ。そんごとうれり。私よ私とありくま
腰
あそび。イヤつまくわく。めのうと軒よおきだりとく。

是よりよどへとくじらそぞべりよふよるの
う。見脇やうすやうとありて來たりのをやあう
さすへまごねよくな。アホもひよえじゆ
コリハカリもひよくな。をやありでやうへ
でつてうんたゞいがうひよぐや。イヤはきへ
ゆうか。それでうちうらア。ちとしぐれりのがゆうそ
こやあくづねうるりのと。誰えんじゆひな。イヤか
ぐある。それがまくわ。おきうえりんまぬへそ



トヤコリナアおまが船へ乗そとまうの。コクヤ太
麿アとソリアりゆアはまよ處つてどやが。おまのさんざん。
おもえ。何ぞ形がありまをくひなア用とソリハ
ぞ。おもとぞもとぞりとひてのアヨモジン
やの。そるのみおとらへのくよ。法輪寺とソリハ
あるコハアナレダ。わくよひちのむ布けさんざんア
あたまアサアほひえりよアあけとのみれトヤ
ウのふトアトモチア不^{トモ}をちきらう。かういはそれうは町を
つまきあぐよのがるとするをとまきニタん

見ゆよ。まうりとまうきとく。どくらうだらうアハアちとアお
入スルが。まうり大ききとく。どくらうのやまくアハアちとアお
カまそ。アラウラア族のりのでごそりやまく。おやうア
ヘおやびがゆうてアまうりアとアまうりアア。りまへ
ええ。おもとぞりんせとあもとぞりんせとソリハ
アヤの背アハアまうれやせぬ。アラウラアア友アもアうちが。
死アりアやアまうら。それでおやひアヒヤアモアアアく
死アりアやアまうら。それでおやひアヒヤアモアアアく
死アりアやアまうら。葬アれ。コリヤアモアアアく。ま
死アりアやアまうら。葬アれ。コリヤアモアアアく。ま

うきひなしでまへまへうきひ。今まざりけすの檀那へ。
のこゝに連者（えつしや）でぞれゆく食食。ア、あよエふるい。不
仕合（しわせ）みうちやとおりひあらう。されどん檀（だん）がま
天死（てんしき）して。まは胃（はい）の陽（よう）お。おきりゆゑぞううらがま
かせう。ほふて川酒（かわしゅ）をりどあげまよろいな。され
ありがまよござりすも。まぐらひそひどや。まくらちふ
石（いし）す。まくらむ。ほりて葬（くわう）れよ。まお糸（いと）りそくや。せ
イヤワリヤ。早速（まことに）みうちやが。施（せし）うがれ。准（じん）どぶや

代（しろ）イコウらすまくらでござりやまと。とまえ（とまえ）とまえ（とまえ）とまえ（とまえ）
ドキ（ほほ）いな。代（しろ）イヤコウらすアモギのタのでござりやまと。
令昆（えいこん）羅系（らけい）續（つづ）よまくらす。船（ふね）の中（なか）でつまぶ一人。
てとなせよまくら。それでかまく（まく）かくのミヤのでござ
やと。代（しろ）モリヤクケヌゲの葬禮（くわい）トやな。あくしき
ようれすよぎや。旅（たび）のえきよは來（き）のよけ形（かたち）がゆふとぞ
まく。代（しろ）モチ取（とど）りやせぬ。代（しろ）モチ取（とど）りやせぬ
うのす。代（しろ）

トヤモ^侍。あんどうちや。モヤムハニ元ドヤ。せうく
えんこうのと^はリリヤアリハおちまうかくとどき
タモ。おまのどくみ^はア^モ危きのわうも。おうちヤド^モ
トシナウヤゲト^モ。サア^モ次モ^モあくがね^モ。モトナウを
モトモトアシムト^モあまともちりをうそとスミハク。ある^モ後^モ
カレ^モも^モまゆもあれ^モ。ふくとどうよ^モれ^ハあ^モ不^モの^モ後^モ
一^人ソ^モア^モぐ^モか^モる^トと^モヘア^モうんざ^トと^モう^ト
叫^ハめん^モセ^モ。おせ^モよ^モくちと^モおね^モび^モが^モざ^モ。
いびのり^モで^モざ^モヤ^モ。一人船中^モで病死^モ

モ^モぞある^モ。もともとひるをうて^モざ^モヤ^モ
アリヤ^モ羅^モ金^モ。モ^モトド^モ。莫^モ傳^モ。モ^モう高^モ
モ^モの仕職^モで^モざ^モ。兩^モ劫^モ。モ^モア^モう^モ。華^モ
モ^モう^モく^モ、^モ正^モ服^モ。モ^モう^モ。經^モも傍^モ身^モ。モ^モのよ^モ
のと^モあ^モ。それ^モう^モ詮^モ物^モ。余^モま^モ出^モ。又^モ
りん^モう^モ。モ^モふ^モ。イヤ^モ吉^モよ^モの。或^モ歌^モう^モ
え^モや^モう^モ。モ^モむ^モ。モ^モき^モで^モの^モと^モあ^モ。^モ是^モ格^モ別^モ
^モ軒^モで^モざ^モ。何^モよ^モす^モ。好^モ^モざ^モ。^モ好^モ^モざ^モ。^モ好^モ^モざ^モ。

それよりアリスム。ジヤセナガ。アリス。残のアリス。
アリス。が経のアリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。ハテ亡者マタドへアリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。

アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。
アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。

トモトコロハハイリタマニシテヨリナヤセラ。ノリ
ハ次えん^{ノリ}アリヅキモのトモトコロアリミヤヤセ。
トモトコロアリトモドヤセラ。トモトコロアリツキモトモ
アリトモドヤセラ。トモトコロアリツキモトモドヤセラ。
トモトコロアリツキモトモドヤセラ。トモトコロアリツキモトモドヤセラ。
トモトコロアリツキモトモドヤセラ。トモトコロアリツキモトモドヤセラ。
トモトコロアリツキモトモドヤセラ。トモトコロアリツキモトモドヤセラ。
トモトコロアリツキモトモドヤセラ。トモトコロアリツキモトモドヤセラ。
トモトコロアリツキモトモドヤセラ。トモトコロアリツキモトモドヤセラ。
トモトコロアリツキモトモドヤセラ。トモトコロアリツキモトモドヤセラ。
トモトコロアリツキモトモドヤセラ。トモトコロアリツキモトモドヤセラ。
トモトコロアリツキモトモドヤセラ。トモトコロアリツキモトモドヤセラ。

古
礼をナシ上ナシモアリルカノハアリミノヘビゴザリカス
禪^{ミツ}ヘ聖^{セイ}ガヌシムシトモドヤナ。ナシテ因縁^{イヌイ}トイナリ
クナシムナカノトドヤ。ナヒ佛^{ボク}も。どちのナシムモドヤ
モ。合^{ハシメ}ヒ^{スル}トスヘビツクナシキ本堂^{エヌダ}の雨戸^{アシキ}ガ。
ナシムノリヒ^{スル}トスヘビツクナシキ本堂^{エヌダ}の雨戸^{アシキ}ガ。
間^{マサニ}セ人のああふ^シナムトシムハナガ^シナヘタヘクシキ
レ^ストス^スス^ルコロハナ^シナ^シナセラ。ソシダ^トセリ。
アラウラシアヌモ^シナ^シナセラ。モ^シナ^シナセラ。モ^シナ^シナセラ。

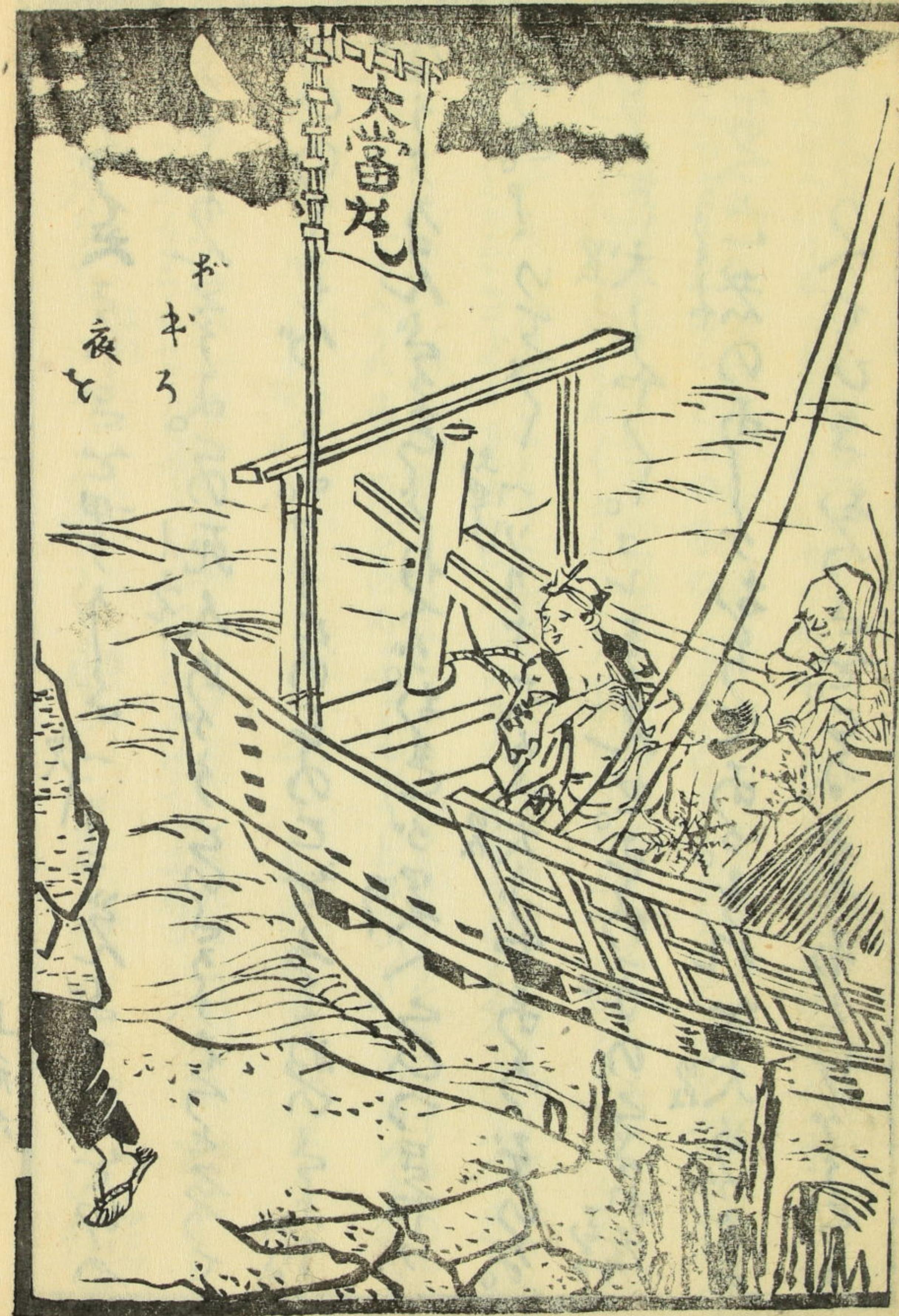
うへへあくろミヤサとアコレマア。沐浴^{お風呂}を。
あうちやへつとてまくとんせ^{御内}ナニサ^{玉音}仙の送^{お見}去^{お見}
ごそくすとく。あくろん^{アキラ}とよみごそくと^{アキラ}作^{アキラ}
そできく^{アキラ}の。獨^{ダチ}世^セの候^{アキラ}を洗^{アキラ}ひあとく。佛^{アキラ}
あど。その金^金よ湯^湯ゆ^ゆとある^{アキラ}。ちよと
かとへゑてりそ。あくろん^{アキラ}とぞごそく^{アキラ}とくの
えんじや。あくろんせ。サア^{アキラ}その銅^銅波^波ノウ
ほんぬの^{アキラ}せ。ア^{アキラ}が湯^湯ノウ^{アキラ}んでりそと

子ヤト山内^{山内}水^水少^少ヘハ^ハサ^サト^トう^うは^は野^野を^を野^野う^うと^とる^る。戸^戸板^板又^又
う^うか^かア^アみ^みん^んか^かア^アと^とう^うと^とも^もう^う。は^はう^うあ^あう^うと^とう^うの^のと^とき
う^うう^うで^でり^り生^生か^かア^アと^とう^うと^とも^もう^う。は^はう^うあ^あう^うと^とう^うの^のと^とき
う^うう^うく^くれ^れが^がア^アと^とう^うと^とも^もう^う。は^はう^うあ^あう^うと^とう^うの^のと^とき
う^うう^うく^くれ^れが^がア^アと^とう^うと^とも^もう^う。は^はう^うあ^あう^うと^とう^うの^のと^とき
ア^アリヤ^アと^とう^うと^とも^もう^う。ア^アリヤ^アと^とう^うと^とも^もう^う。ア^アリヤ^アと^とう^うと^とも^もう^う
を^をえ^えね^ね。ア^アリヤ^アと^とう^うと^とも^もう^う。ア^アリヤ^アと^とう^うと^とも^もう^う
ア^アリヤ^アと^とう^うと^とも^もう^う。ア^アリヤ^アと^とう^うと^とも^もう^う。ア^アリヤ^アと^とう^うと^とも^もう^う
ア^アリヤ^アと^とう^うと^とも^もう^う。ア^アリヤ^アと^とう^うと^とも^もう^う。ア^アリヤ^アと^とう^うと^とも^もう^う

スルモリケナリ。トスルトスルアリヒトスル。一トスルトスルアリヒトスル。モリヒトスル。アゲハトスル。
トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。
トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。

トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。
トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。
トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。
トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。トスルモリヒ。

ハナニシムドアリトスル
サクアラルシヨ。ム死人めナラムシモトスル
シビのくもグミヨ。ツイシのきのこをキミヘヌヒトスル
ソウスルシテガタニタハ。ガモシガヌヘヒツモア
グム。アリシテアリリヤナカタハドヤあらゴリ。
ドシアダレヤ。コレミシムセ。モミシの子のキミ
ナシ。亡考のゆきがわらである。それと犬めがを
ナラケテひきあふこと。シナミンカとけがうる



とありて。まもつぶさんとの、やあうぞのみア
そんすう。アうちかめくらひつゝる。大めトやな。
いめくさアハツバリモホラクセアガトアリテ
れアキヤアシクトモタスモアメヒタスヒトヨリトモル
あまひぢりうをちきりサクのとくをぱうれももとちうどくろ
わんぢよろ。せんぢうかりともりをさくへとくらうタヌ。のり合の人
びとのくと。あをひよあぐとくと。あふくのく。あよのくと
はひうをさけうととうをせんぢうとも
あひすまく。あねもすとどものめりる

死ぬのれ變え。それや是うと

上ノ世ハ

私よ追風の富貴自生され

ア移ひ直し。既よ夜四け毛べ。せんぢうあうこ
ども私中をゆくひきゆみ。修築者をよび来る。
不淨よけの竹縛をう。やがて翌日。船の追風よ
帆うけて。あまうとづらをまう。たゞも候前
の大女婦の沖よ至り。拔石室五里。海中す。
小豆弓の見えさま

糸毛の突入もよや小豆弓

トタトトとくびよねすぐぞとく

それより牛窓前とりゆめくをやくりどり。
ハ島の矢うが嶽。角のくよ。元く聳え。鍾
破の小富士もよろしく。下陣井の浦見え
まう。浦中みか坂山石島もどそべてころ
あす。小島あおく。景き佳樂りそんくる。
その日申の郊野とありよ以。さぬまのまた
龜の川口みぞゑくらり。室とうはふせ

鶴宮へゆく浦もよゆくねども

のりゆせすれ丸巻の舟

わす。汝子よゆひて。二丁をぐり沖のくよ和を
あて。漫波とす。叶後へとくみく。づすぢ
難波すとりす。おもひやすやく川中よのう
入。ほなとみ島をとへ。大物をとりる猿翁正
よやく。是ハ私臣の宅のす。案内よすくせと
くすり。もととぞくさん法のおりひき

あります。

阿蘭陀新繪 おり玉全

右高年の生核をつむぎありて
そりくすくとじきとむくらがくさす
絵とくわくよしゆくもく春のつる
つあはうのうめい

栄邑堂

續 滬栗毛初編上巻終

